



くにたまの会会報

【第5号】

発行／くにたまの会
島根県出雲市大社町杵築東195
出雲大社社務所内
TEL：0853-53-3100

神田神社（神田明神）

天平2年（730）に出雲系氏族真神田臣が祖神大己貴命を奉祀したことに始まり、江戸開府後の元和2年（1616）に江戸城の表鬼門に当たる現在地へ遷座、以来「江戸総鎮守」として將軍をはじめ庶民に至る広い崇敬を集め今日に至っています。特に年中最大の祭礼である神田祭は「江戸三大祭」に数えられるとともに、祭礼の核となる山車巡幸は江戸城での將軍上覧を伴ったことから天下祭とも称される。現在、山車は町神輿に姿を変えたが、首都東京に於ける年間最大の神事として多くの参加者・見物人で賑わいを見せます。



ご挨拶

くにたまの会総裁
出雲大社宮司

千家尊祐

会員の皆様方に於かれましては、大國主大神様より賜われます大いなる御蔭のもと、日々の御社頭奉仕に励まれるとともに、大神様の御神徳宣揚にお努めになられておりますこと心より感謝申し上げます。

来春には愈々天皇陛下が御譲位され、皇太子殿下が新たな天皇として御即位あそばされます。平成三十一年四月三十日には「退位礼正殿の儀」、翌五月一日には「剣璽等承継の儀」が執り行われます。同年秋には十月二十二日に「即位礼正殿の儀」、十一月十四日・十五日に大嘗祭が執り行われます。平成の大御世から新天皇のもと新たな元号を戴いた大御世の到来への期待と、約二百年ぶりとなる御譲位による御代替りという歴史の大きな節目に立ち会わせて戴くことに、深い感慨を抱きます。

私自身、新天皇の大御世にも一意専心お仕えする覚悟を新たに致しておりますが、斯界にあつても神職・関係者一同、新天皇をお支えするべく、その思いを一つにしていきたいと願っております。

社会情勢に目を向ければ、現政権は長年山積みとなっていた外交・経済な

どの政治的課題を克服すべく、着実に成果をあげていると感じます。経済の好転というものは身近に於いてはなかなか直ぐに感じることは難しいことではありますが、辛いと感じるこの時代を耐えた先にこそ、私達の子孫の繁栄があると信じたいと思います。大國主大神様は、多くの艱難辛苦を乗り越えて国造り、そして国譲りの大御業を果たされました。そこには、この豊葦原瑞穂國がより豊かに立ち栄えるよう、また大御宝である國民がいつまでも平穩・幸福であることを願う、一片の私心なき御慈愛の御心によるものと固く信じております。

いま、私達が「為すべきことは何か」と自問するに、大神様の御心を戴し日々の神明奉仕に邁進することこそ、大神様の御心に適い、子々孫々に至るまでその御蔭・御守を蒙れるものであると思ひます。くにたまの会と致しましても、今後とも大國主大神様への信仰を通じ、その御神徳の宣揚と啓蒙に力を合わせて共に精進していきたいと念ずる次第でございます。延いては、それが聖上の安泰長久、御皇室並びに我が國の弥栄を磐石にするものと信じ、御挨拶とさせていただきます。

平成二十九年度くにたまの会総会

於 奈良県 大神神社

平成二十九年七月四日、くにたまの会の第五回総会が奈良県大神神社を会場として開催されました。

本年は、五十八社九十九名の会員神社と関係者が参加し、大神神社大札記念館を会場として総会並びに研修会が開催されました。はじめに参加者全員で正式参拝、総裁千家尊祐出雲大社宮司と理事長吉田源彦北海道神宮宮司が玉串を奉り拝礼しました。

総会では、出席者全員による神宮



並びに奉務神社遥拝・国歌斉唱の後、千家尊祐総裁からの挨拶では制定七十年を迎えた日本国憲法のもと繁栄を享受してきた我が国が直面する課題と、国政・外交面で抱える問題克服へ向けた「和合」の心の実践の重要性について述べられました。続く議事は、廣瀬明正理事（荒井神社宮司）を議長として進行され、事務局より会計報告として平成二十八年年度事業報告及び予算報告、平成二十九年度の事業計画及び予算案が提示・審議され、いずれも賛成多数により承認されました。また、前年度より引き続きしている事業の経過報告として、前年度総会にて決定した会旗が完成披露されるとともに、ホームページ制作について会員神社からの情報提供について改めて協力依頼がされました。それに関連して、前年度から十一社の新規加入があった旨が報告され、更なる会員拡充へ向けた会員各位の取り組み強化が依頼されるとともに、具体的取り組みとして支部結成へ向けた動向について報告がされました。

研修会では、國學院大學神道文化学部の岡田莊司教授による「古代国家の祭祀―大和と出雲―」と題する講演が行われました。岡田氏は「何故神社が今日まで繁栄し続けているのか」との疑問を出発点として、氏神・氏子との関係に基づく地域性や共同体意識と、古代に於ける天皇祭祀を頂点とした祈年祭を始めとする国家祭祀の創始を重視し、天皇祭祀に代表される天照大神を中心とする天神祭祀、大国主大神を代表とする国神奉斎神社の祭祀との関係性に触れられました。特に大神神社を中心とする旧大和国内鎮座の大国主神とその御子神奉斎神社の位置関係から、「出雲国造神賀詞」で奏されるような「天皇の近き守り神」として天皇・皇室を支えお護りする立場としての国神の存在と、それに支えお護りされる天神と天皇・皇室との関係性が神話や出雲国造神賀詞といった神社や神道、そして祭祀と密接に関わり展開されていることの重要性について述べられ、「くにたま信仰」を通じて大国主神とその御子神を中心とする国神と天神の関係性を考究することによる、今日神社神道に於いて展開される神社祭祀に対し、天皇祭祀や国家祭祀を踏まえた研究を進めていくことの重要性を述べられました。大国主大神を仰ぎ慕うくにたま信仰の淵源が、遙か古代の律令国家祭祀の成立と天神国神との間に結ばれた仕奉と守護の関係性にまで遡って捉えられるとする見解は、今後の



本会及びくにたま信仰の発展を考へる上で有意義な講演を拝聴する機会となった。

総会後、会場を檀原ロイヤルホテルへ移しての懇親会が催されました。懇親会は、開催地である大神神社宮司の鈴木寛治副理事長の開会挨拶にはじまり、猿渡正盛理事（大國魂神社宮司）の発声による乾杯の後、普段顔を合わす機会の少ない会員同士互いに親睦・交流を深め合い、会は終始和やかな笑い声に包まれました。会の最後に次年度の総会開催地について報告があり、平成三十年度総会は東京都にて神田神社・大國魂神社を開催担当として開催されることが報告されました。

兵庫県支部結成総会

於 射楯兵主神社

去る平成三十年三月三十日、兵庫県姫路市に鎮座する射楯兵主神社（西本和俊宮司）の社務所を会場として、くにたまの会兵庫支部結成総会が、千家和比古総裁代理（出雲大社権宮司）と泉和慶兵庫県神社庁長のご出席のもと開催されました。

くにたまの会では全国規模の会として活動していくにあたり、会員神社同士の緊密な連携を図ることが重要であることから各都道府県単位での支部結成の必要について会員各位から意見提案がされてきました。昨

◆ 出席者一同での記念撮影 ◆



年度総会に於いて事務局より支部会則（案）が示されたことで、各地域で支部結成へ向けて取り組んでいくこととなりましたが、此度の兵庫支部が最初の支部結成となりました。当日は、兵庫県内の会員神社三十一社の内十八社が出席、定刻午前十一時に別所敬介宮司（温泉神社）による開会宣言の後、来賓である千家総裁代理と泉庁長から挨拶、廣瀬明正宮司（荒井神社）より支部結成に至る経過報告がされて、盛田賢孝宮司（夜比良神社）を議長に選任して議事へと移りました。

議事は、（一）「支部会則（案）」についてと（二）「支部役員について」の二つが諮られ、（一）「支部会則（案）」については廣瀬理事より説明がなされた後議場に諮られて満場異議無く承認がされました。（二）「支部役員について」は支部長に射楯兵主神社西本和俊宮司のほか全十二名の役員就任案が提案され、これも満場異議無く承認と相成りました。全議案が承認された後は、支部会費について一社五千円であることが説明されて総会は終了しました。

総会後は、出席者全員で射楯兵主神社を正式参拝、神門前で記念撮影

をおこない社務所別会場に移った懇親会が午後十二時より催されました。祝宴では別所宮司が司会を務め開会を宣した後、支部長となった西本宮司より支部結成が果たされたことへの喜びと今後の支部運営に対する抱負が述べられました。乾杯の後は出席者各位の自己紹介が順を追っておこなわれて、終始和やかな雰囲気では進み、午後二時頃散会となりました。

◆ 総会の様子 ◆



す。また、この兵庫県支部結成をモデルケースとして今後多くの支部が結成されることを期待致しております。

◆ 挨拶される西本支部長 ◆



此度、新任された役員は次の通り。

くにたまの会兵庫支部役員

- 支部長 西本和俊（射楯兵主神社）
- 副支部長 盛田賢孝（夜比良神社）
- 別所敬介（温泉神社）
- 理事 伊藤孝二（河内國魂神社）
- 吉井良英（西宮神社）
- 安黒秀幸（伊和神社）
- 小松守道（高砂神社）
- 大部昭彦（野口神社）
- 打田三郎（浜宮天神社）
- 進藤千秋（御形神社）
- 高島俊紀（家島神社）
- 廣瀬明正（荒井神社）
- 監事 高島俊紀（家島神社）
- 地区理事 廣瀬明正（荒井神社）

会員神社紹介

武蔵総社

おおくにたまじんじや
大國魂神社

【鎮座地】

東京都府中市宮町三ー一

【御祭神】

主祭神 大國魂大神
小野大神・小河大神・氷川大神
秩父大神・金佐奈大神・
杉山大神・御霊大神・国内諸神



【御由緒】

当社は大國魂大神を武蔵国の護り神としてお祀りした神社で、景行天皇四十一年(一一一)五月五日の創

建と伝えられています。

天穂日命の子孫が武蔵国造に任じられ奉仕して以来、代々国造が奉仕しましたが、大化の改新によってこの地に国府が置かれてからは、国司が奉仕するようになり、国衙の齋場として武蔵国内の祭務を総轄する社となりました。

また、国司が行っていた国内各社の奉幣巡拝が困難になり、当社に国内神社の御祭神を合祀しましたので「武蔵国総社」となり、後には国内の著名な神社六社の御祭神を配祀しましたので「六所宮」「六所明神」と称されるようになりました。

また、当社は武将からも崇敬を受けました。源頼義・義家父子は奥州平定の願いを込め社殿を北向きに改め、成就の御礼として櫂の苗木千本を寄進、源頼朝公は使節を派遣し妻である政子の安産祈願をいたしました。また、徳川家康公は、社領五百石の寄進(代々の將軍からも同待遇)、社殿建造物の大造営、参道であるけやき並木両側に馬場の造営等を行つたと伝えられています。

その後、時代が代わると明治元年には准勅祭社に、明治十八年には官幣小社に列せられました。時代ごとに人々の崇敬を受け、その崇敬を支えられて現在まで歴史を伝えていきます。

【例大祭(くらやみ祭)】

武蔵国の国府祭でもある祭で、四月三十日より五月六日まで七日間に亘つて様々な神事、神賑行事が行われます。五月三日午後八時から、「競馬式(こまくらべしき)」が行われます。六頭の御神馬を走らせて優れた馬であることを検分する神事で、平安時代の国司の行事が起源とされています。

五日午後六時から「おいで」と呼ばれる神輿渡御が行われます。六張の太太鼓の先導により八基の神輿が神社から御旅所までを渡御し、各神輿が勇壮さを競います。かつてはこの神輿渡御が深夜、街中の灯りを消した暗闇の中で行われたことから「くらやみ祭」と言われています。



【御本殿】

慶長十一年に徳川家康公の命により造営された社殿が類焼により焼失、その後、四代將軍家綱公の命により寛文七年に再建されたものが、現在の御本殿です。

三間社流造の社殿三棟を連結した相殿造で、東京都の有形文化財に指定されています。



【馬場大門けやき並木】

神社の参道は「馬場大門けやき並木」として国の天然記念物に指定されています。源頼義・義家父子が櫂の苗木を寄進したことが起源と言われ、江戸時代には徳川家康公により補植が行われたと伝えられています。

射楯兵主神社

いたてひょうずじんじや

【鎮座地】

兵庫県姫路市総社本町一九〇

【御祭神】

射楯大神（五十猛命）
兵主大神（大国主命）

【御由緒】

国宝姫路城の傍ら、兵庫県姫路市総社本町鎮座し、本殿は二柱の神一射楯大神（五十猛命）と兵主大神（大国主命）が祀られています。『播磨



国風土記』等が二神それぞれの奉祀について触れています。『延喜式神名帳』に「射楯兵主神社二坐」とあって、平安時代には本殿二神奉祀のかたちが整えられていたようです。安徳天皇の養和元年（一一八一）、本殿後方に播磨国十六郡を東播磨八郡・西播磨八郡に分けて計一七四座の主だった神々を併せ祀っているところから「播磨国総社」として地元で親しまれています。神使は「みみづく」で「撫でみみづく」など境内に散見できます。またご祭神のご神徳から正面参道は「縁結び通り」として姫路観光名所として指定されています。黒田官兵衛縁りのお宮として「負け無し」であったことから代々篤い崇敬を受け、江戸時代は姫路城鎮護の社として城主の尊崇と数々の寄進を頂いています。

平安時代の臨時天神地祇祭を起源とする二つの式年祭「一ツ山大祭」（六十年毎）「三ツ山大祭」（二十年毎）では、高さ十八mもある「置山」を設置し、あらゆる災厄「八難九厄」を祓い、幸せを願う祭りとして全国的に有名です。



十日恵比須神社

とおかえびすじんじや

【鎮座地】

福岡市博多区東公園七番一号

【御祭神】

事代主大神
大國主大神

【御由緒】

安土桃山時代、香椎宮宮司家であった武内平十郎（隠居して五右衛門）と申す者が博多に分家し、神屋



と号して商売を営んでいた。此の者、天正十九年（一五九一年）年始めに当たり香椎宮、筥崎宮を参拝した帰り、浜辺潮先において恵比須二尊像を拾い上げ、謹んで自宅に持ち帰り、お祀りしたところ家運、商いは大いに栄えたと云う。

翌年文禄元年（一五九二年）一月十日に拾い上げた場所に御社を設けた。毎年この日を十日恵比須と称え供物を捧げおまつりした。ここに参拝した者はその年、不思議と繁昌したと云う。これが知られて次第に参拝する者が多くなっていった。

江戸時代に入り、福岡藩主黒田家の菩提寺である崇福寺に社殿を移設するも、明治時代に入り、崇福寺から東公園に遷座。昭和の時代に今の地へ移設し現在に至る。

昭和二十七年（一九五二年）に出雲大社より大國主大神のご分霊を勧請し、現在福の神と慕われる二柱の大神が御鎮座まし坐す。

一月十日が創建日として、八日から十一日迄の四日間、正月大祭を開催しており、期間中は昼夜を問わず賑わう。

【URL】

<http://www.tooka-ebisu.or.jp>

くにたまの会 新規入会神社 (平成30年6月30日現在)

神社名	宮司名	鎮座地
穴八幡宮	齋藤成彰	東京都
戸倉神社	宮本信行	東京都
磐井神社	森田昌之	東京都
日枝神社	星野誠	東京都
国領神社	野澤靖明	東京都
山王社	中村武比古	東京都
稻荷鬼王神社	大久保直倫	東京都
住吉神社・琴平神社合社	高井住和	東京都
出雲神社	宮田健二	東京都
田無神社	賀陽智之	東京都

神社名	宮司名	鎮座地
坂城神社	片岡一仁	長野県
金刀比羅神社	春日井祥示	岐阜県
養父神社	伊藤千可志	兵庫県
諏訪神社	渡部律也	島根県
国主神社	齋木正保	島根県
廣國神社	市川淨子	島根県
十九社神社	金築宏	島根県
花雪神社	壺倉博司	島根県
草野神社	家原成宜	島根県
伊奈頭美神社	平井一喜	島根県
眞神社	古瀬光治	島根県

会員増加の動向と
今後の方針

本年度も、新たに二十一社が本会に加入して下さいました。

これにより会員神社は二四七社となりました。地域ごとの会員数で見えますと、北海道三〇社・東北一五社・関東四三社・東海一七社・甲信越一二社・北陸一六社・近畿四七社・中国四四社・四国三社・九州二〇社に加入して戴いております。都道府県別では島根県の三四社が最多、次いで兵庫県が三一社、北海道三〇社となっています。結成から順調に会員増加を見せていますが、三重県や高知・徳島の四国二県、佐賀県・沖縄県等まだ会員神社がない県も少なからずあります。周囲に会員神社が不在であると、入会意志があってもなかなか踏み切れない神社も多いかと思えます。会員の皆様には地域や県の垣根を越えて、友人・知人などあらゆるご縁のもと、新たな入会神社を募って戴きたくお願い申し上げます。

くにたまの会事務局

「くにたまの会」
会報ご寄稿のお願い

皆様よりお寄せ頂きました記事や情報を会報に掲載させて頂きます。就きましては、遷座祭・式年祭・特殊神事・地域の伝統行事・身近な出来事等どんな事でも結構でございますので、ご寄稿を賜りますようお願い申し上げます。

送り先

〒六九九一〇七〇一

島根県出雲市大社町杵築東一九五

出雲大社社務所内

「くにたまの会事務局」まで

電話 〇八五三一五三一三二〇〇

メール johno@izumoooyashiro.or.jp

※写真を添えてお寄せ下さい。